

# 運天港

## 沖縄県土木建築部港湾課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2

☎098-866-2395

URL : <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/doboku/kowan/keikaku/documents/okinawanokouwan.html>



## 1. 概況

運天港は、沖縄本島北部の本部半島の東側に位置し、本部半島、古宇利島及び屋我地島に囲まれた天然の良港である。

琉球王府時代には今帰仁間切所が設置され、北部の行政の要所であった。また、17世紀の薩摩軍の琉球侵入時に第1歩を踏み入れた港として、その後も薩摩との航路として利用された。

大正期から昭和にかけては、奄美諸島や近隣離島との流通の中心地として畜産物・サトウキビ等を取り扱い、黒糖の本土向け積み出し港として栄えた。

戦後、北部製糖が水深5m、1,000トン級の船舶が利用できる岸壁を建設、本格的な港湾機能が再開し、昭和47年5月には沖縄の本土復帰と同時に沖縄県を港湾管理者とする重要港湾に指定された。

昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会の資材搬入港、観客輸送港湾として位置づけられたことから、港湾施設の整備拡充がなされ、10,000トン級の岸壁等が完成した。また、沖縄本島海域で唯一の天然の避泊地である羽地内海の整備も行われた。

その後、本港と沖縄本島北部の拠点である名護市街地までの道路整備が進んだことにより本港の利便性が高まり、昭和63年から伊是名航路が、平成2年からは伊平屋航路が本港の利用を始め、本格的なフェリーふ頭の整備が求められていた。このようなことから、平成4年3月に港湾計画の改訂が行われ、平成19年にはフェリーふ頭が全面供用された。

平成27年には陸上電力供給施設が整備され、フェリーへの電力供給が可能になるとともに、電動ボーディングブリッジへ直接供給することが可能になった。